

YELL CHIBA

エ〜ルちば

冬
2012

P1 ・寄付されたニット地はどこへいったか？

P3 ・有事の際の円滑な支援を目指して
～君津方式の試み～

P2 ・学生たちが被災地支援で得たもの
・学生が空き店舗を利用して常設支援

P4 ・インフォメーション、編集後記



インタビューに答えてくれた
山岡 恵子さん(佐倉市社協)

「シリーズ」ボランティアコーディネーター

「布」を追って出会った「熱い思い」と「繋げる力」
寄付されたニット地はどこへいったか？

市原市に「パウルニット」という会社があります。イタリア有名ブランドのTシャツを、日本で唯一製作して納めています。このことから判るように、小粒ですが極めてデザイン力と技術力の高い会社です。ここを率いる二代目社長、成谷狭田子さんは、ここ数年、上質のニット地を社会福祉協議会に寄付しています。倉庫整理で出た生地が人に役立つものに生まれ変わることをお願い「娘を嫁に出す重いです」とのこと。トップブランドを支える超上質のニット地は、どこへいくのでしょうか。追ってみました。

ニット地は、一旦、千葉県ボランティア・市民活動センターに納められました。スタッフは、「大切なあずかり物。何としても、よい嫁ぎ先を見つけねば」と、電話をかけつづける毎日が続きました。

佐倉城跡のふもとにある佐倉市社会福祉協議会。ここにとびきり元氣な職員がいます。地域福祉推進のために毎日かけまわっているリーダー・山岡恵子さんです。ニット地の話を聞いたとき、鋭いアンテナと幅広い情報網の持ち主、山岡さんは、ビビッと反応しました。

佐倉市社協傘下の各地区社協では、多

くの福祉事業を積極的に展開しています。いつも予算の制約にくやしい思いをしていたからです。そんなに上質の生地なら、きつと役に立つ場所があるはずと考え、早速、各地区社協に「嫁ぎ先求む」を発信したのでした。そしてそれに敏感に反応したのが、志津地区社協でした。

京成沿線の志津は、高度経済成長時代に、ユーカーが丘をはじめ住宅展開が盛んになり、サラリーマン層の定住が始まったところ。しかし当時入居した会社人間たちも、今やリタイア組がどんどん増えていきます。そのことは、単なる「寝る場所」から、毎日の生活の場として、我が街について真剣に向き合うことを求められます。そうした事情から地区社協にも「互いの顔の見える安心して生活できる街」を目指して活動する気運が出てきたのです。



平成十六年からスタートし今も継続している百円喫茶の試みも、そのひとつです。中学校や団地集会所など市内七ヶ所で開催し、利用者は百円でコーヒーとお菓子の提供を受けたうえで、歌や健康体操や折り紙などで楽しむ趣向です。住民同士の交流ができるたまり場づくりで、月一回の開催にもかかわらず毎年二千人前後の利用者でにぎわい、多くの支持を集めています。このどちらかというところ、日常的なイベント型の空間を日常化して、さらに一歩ふるさとづくりに近い近づけようとして、今年の七月から始まったのが、ふれ愛喫茶です。

これは地区社協志津ふれ愛センターの



【写真】

- ① 株式会社パウルニット市原工場
- ② 県社協ボランティア・市民活動センターに運び込まれたニット地
- ③ 佐倉市社会福祉協議会の事務所
- ④ 志津地区社協ふれ愛喫茶の入口
- ⑤ ふれ愛喫茶店内と運営スタッフの人々(左から3人目が、長谷川大美さん)
- ⑥ ニット地が、こんなに立派なクッションに変身!



特集

学生・若者のライフバランスと
ボランティア活動

● 城西国際大学 ●



インタビューに答える松下やえ子准教授(中央)
上野仁郁さん(左)、明田川智美さん(右)

学生たちが被災地支援で得たもの

震災直後から石巻市で活動してきた松下やえ子准教授は、自分たちの身近な場所
所で支援することの大切さを、熱心に説
いていきます。そしてその教えに共鳴した
ボランティアサークル「スターダスト・
キッズ」の学生たちは、県下の旭、飯岡兩
地区の仮設住宅に通うようになりました。
中心メンバーの上野仁郁さん、明田川
智美さん(いずれも三年生)によれば、そ
こでは、ドレスタオルやパッチワーク手
提げなどの小物作りのお手伝いや、運動
に遊びを採り入れた「遊びリテーション」
で機能低下の予防を行っているようで
す。なかでもとりわけ手話によるコーラ
スは、仮設の人々と心が通いあえるとの
ことです。そうした活動の中で笑顔に出

会うと、人と人が支え合うこと、しかも
それを継続することの大切さを痛感した
そうです。二人はこれからも旭、飯岡兩地
区に積極的に関わりたい、そしてその経験
を生かして将来は介護福祉士になりたい
と、輝く眼差しで語ってくれました。



手話コーラスを披露中(飯岡地区仮設住宅にて)

● 淑徳大学 ●

学生が空き店舗を利用して常設支援

千葉市白旗地区では、淑徳大学ボラン
ティアセンターの学生たちが商店街の空
き店舗を借りて常設のカフェを運営し、
地域支援にのりだしました。そしてここ
を拠点にして、工作教室、ボランティアに
関する講座、高齢者へのハンドマッサー
ジなどの活動を行っています。また地域
のゴミ拾い活動や障害者とレクリエー
ションにも利用しています。今後は、華道
や茶道の教室も開くことを計画していま
す。



石橋宗一郎さんを先生に、香り袋作りに挑戦中の子供たち
(支援カフェにて)

中心メンバーの宮下玲さん(四年生)は、
高齢者の心のケアも出来る福祉のプロに
なりたいと進路について語り、同じく石
橋宗一郎さん(二年生)は、将来、地域振興
や街作りに関わりたいと、抱負を述べて
います。

県下でも極めて珍しい学生が運営する
常設の支援カフェは、明るい話題となっ
ています。



支援カフェには、子供たちの笑顔がいっぱい
(右端が宮下 玲さん)

(1面からの続き)

一事業ではあるものの、独立採算制で、自
分たちで駅前スペースを賃借して、幅
広く飲食の提供も行っていきます。今ま
での高齢者福祉的な活動から、一般市民を
まき込んだ運動への質的転換とも言え、
県下初の試みです。

この活動の中心にいるのが、地区社協
の副会長、長谷川大美さんです。会社員時
代の豊富な海外勤務時に見かけたかの地
の高齢者たちの生活なども参考にして、
広い見識により地域社会のよりよいあり
方を真摯に追求している熱血漢です。

長谷川さんの態度良好な頭脳はしっか
り山岡さんの情報を受けとめ、ニット地
は志津地区社協に納められることになり
ました。そしてふれ愛喫茶の働きのス
タッフたちの手により、喫茶店のイスの
クッションに加工されました。

志津駅前にあるふれ愛喫茶は、その好
立地もあって、談笑を楽しむ高齢者たち
だけでなく、学生たちの隠れデートス
ポットとして、あるいはサラリーマンた
ちの待ち合わせ場所として、広く利用さ
れつつあります。

こうしてパウルニットの生地は、ふれ
愛喫茶に集う老若男女のおしりの下で暖
かく人々を迎えるグッズに変身して、み
ごとに嫁ぎ先を見つけることができたの
です。

ところで、アクティブな志津地区社協
では、十月からふれ愛センターのもうひ
とつの事業として、一人暮らし高齢者な
どのお困りごと支援活動もスタートさせ
ました。電球の取り換え、家具の修理、庭
の草とりなどを代行し、すでに希望者は
二十名を超えているとのことでした。

今回は、「布」を追ってゆくうちに様々
な活動に出会い、「熱い思い」と「繋げる力」
を発見することが出来ました。

市民の防災に対する自発性を喚起して

～避難所支援ボランティア体験学習 君津市方式～

地域の防災意識を高める有効な方法として、君津市社会福祉協議会が行った「避難所支援ボランティア体験学習」について担当の鈴木幸子さんにお尋ねしました。

日程・プログラム

平成24年9月16日
から17日(君津偕楽園にて)

(ボランティア対象)
・避難所ボランティアアセンターの設営・運営方法の検討・役割分担

・技術の習得(新聞紙でスリッパ・毛布でガウンの制作・清敷・足湯のやり方)

・避難所のレイアウト

・避難民の受け入れ(市民参加)

・地域防災計画の学習

(ボランティア・市民対象)

・各班による支援(総務・情報・物資・炊き出し・見回りなど)

・非常食の配給

・学習した技術をボランティアが市民に伝授

・お泊り体験(冷房無し)
・朝食後意見交換



タオルケットがガウンに変身中!

意見交換の内容

もつと若い世代に参加してもらおうことが大切だという意見がありました。避難所生活では、六十代・七十代の知識や経験が生かせることがあります。若い世代にそれらを伝えることが大切だと思うのです。また、大震災で実際にボランティア活動をした三十代の方からは、情報収集手段としてインターネットやスマートフォンを活用が効果的だとの意見がありました。さらにこうした訓練は一度で終わらず、積み重ねることが重要だとの声も多数でした。

そして、何よりも嬉しかったのは、「体験会で得た技術や住民主体で動くことの大切さを、自ら地域に広めて行く」と話してくれた参加者の言葉です。

君津市方式とは

「得られた知識や技術を自ら地域に広めていきたい。」という参加者の声を聞いただけたことは、君津市社協の行った「避難所支援ボランティア体験学習」の最大の成果です。社協が「避難所」に関わる訓練を直接行うことは稀ですが、挑戦し、市民自らの「気づき」をうながし、防災意識を高めたことは、地域福祉に視点をおいた福祉教育にも繋がります。このような「君津市方式」は他の社協の参考になるのではないのでしょうか?

ポイントとは?

○市民・ボランティア・要援護当事者・町会役員・民生委員・行政・社協が一体となって行ったこと

○避難所に宿泊しそれぞれが顔の見える関係を作ったこと

○参加者全員で感想をのべあったり、意見交換を行い「思い」を共有したこと。



ダンボールとビニール袋で足湯!!

鈴木さんからのメッセージ

この学習会を行うことになったきっかけは、平成二十二年九都県市合同防災訓練です。避難所訓練では自主防災会が運営する中で、様々なボランティア要請がありました。しかしボランティアには、避難所についての知識が無いため、勉強の必要性を感じ、学習会を企画しました。成果としては、実際に避難所を設営して体験することにより、被災者の思いや不自由さを理解できたことです。そして何よりも良かったのは、地域住民・ボランティア・自治体間で意見交換ができたことです。お互いに意思の疎通を図り、いろいろな立場の方々の意見に耳を傾けることの大切さを痛感しました。

幅広い層にボランティア活動への興味を持ってもらえるよう広報の仕方を工夫し、地域の皆様に社協の活動状況を知っていただきたいです。そして地域とのつながりを密にして、住民の皆様が安心して暮らせるように出来たら素敵ですね。

コーディネーターは、社協とボランティアを繋ぐ重要な位置にあると思います。様々な研修に積極的に参加してスキルアップをすること。それが、被災者や地域住民に寄り添ったボランティア活動に繋がると思います。



にこやかに答えてくださる鈴木幸子さん

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

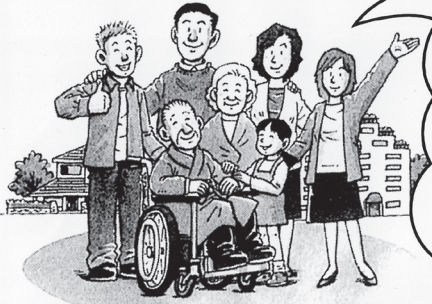
ボランティア活動保険

Aプランで、死亡1,400万円、入院7,000円、通院4,100円、賠償責任5億円(限度額)を補償

全国200万人
加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険



特長は

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償!
- 熱中症(日射病・熱射病)による障害も補償!
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償!
- 地震など天災によるケガも補償(天災タイプご加入の場合)

ボランティア行食用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

年間	基本タイプ	Aプラン...	280円	Bプラン...	420円
保険料	天災タイプ	Aプラン...	490円	Bプラン...	720円

※各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、最寄りの社協にお問い合わせください。

お申込み、お問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

(引受幹事保険会社) 日本興亜損害保険株式会社

インフォメーション information

① ボランティアアリー

ダー・シニアボラン

ティア研修(予定)

日時:平成二十五年一月

二十二日(火)午

前十時〜午後三

時三十分(受付午

前九時三十分)

会場:調整中

対象者:市町村社会福

祉協議会職員、ボラン

ティア活動を行っている

方、ボランティア活動

に興味のある方、テー

マに興味のある方

定員:先着六十名

参加費:無料

②平成二十四年度ボランティアコー
ディネーター研修基礎編(予定)

日時:平成二十五年一月三十日(水)午前

十時〜午後四時(受付午前九時三

十分)

会場:調整中

対象者:市町村社会福祉協議会職員

定員:六十名

参加費:無料

①、②とも申し込み・お問い合わせは、千
葉県ボランティア・市民活動センターま
で。(下記を参照)皆様の参加をお待ちし
ています。

※詳細につきましては、後日お知らせし
ます。

お知らせしたい情報などがありましたら、千葉県ボランティア・市民活動セン
ターまでご連絡をお待ちしています。

編集後記

◇今年も残りあとわずか、思い返せば「突風」が多く「竜巻」の印象が残ります。

千葉港でも六月二十日台風4号の強風により、ビルの解体工事現場で「ビルを囲っているパネル」などが倒壊し街路樹が被害を受けました。通りがかれは、ささくれ立った太い幹から悲鳴が聞こえてくるような気がしました。早晩枯れてしまふのではないかと毎朝晩通行する人は誰しもが思ったことでしょうか。

ところが、ある日気が付けば、その6本の傷ついた幹は新しい命を芽吹かせていたのです。

「自然の猛威と逞しさ」と…。私たちが次に何を準備すれば良いのでしょうか。

今号では、物を大切にすることを、それを繋ぐ人々、居場所づくりの情熱を注ぐ地区社協の活動や居場所の運営に関わる若い世代の取り組みを紹介しました。

また、君津市社協の避難所支援ボランティア体験学習会は「市民の気づきを引き出す手法として参考になるのではないのでしょうか？」

K・T

●発行●

社会福祉法人 千葉県社会福祉協議会
千葉県ボランティア・市民活動センター

〒260-8508
千葉市中央区千葉港4番3号
電話 043-204-6010
FAX 043-204-6015

●発行年月日●

2012年12月20日

●URL●

<http://www.chibakenshakyō.com/>

●E-mail●

shakyō-vc@chibakenshakyō.com